

8. 沿岸漁業重要資源調査

(1) 沿岸底魚類の資源動態調査

担当：太田武行（増殖推進室）

実施期間：平成5年度～（平成25年度予算額：沿岸漁業重要資源調査 8,883 千円うち底魚類に関する予算額 4,170 千円）

目的

沿岸漁業の重要対象種（底魚類・浮魚類等）の資源動向と漁獲実態に関する調査を行い、漁業者への資源管理方策の提言及び省エネ・省コスト型の漁業経営を促進するための情報発信を行う。

【課題1】：小型桁網による沿岸重要資源の分布調査

1) 目的

ヒラメ、メイタガレイ類、マダイ等について稚魚の出現動向及び漁獲対象魚の分布を把握する。

2) 方法

- ・漁船を備船し、4～9月は、図1に示す定線（水深5, 7.5, 10, 15, 20, 30, 50, 70, 80, 100, 120m）において月1回の割合で調査漁具（小型桁網：ビーム5m, 目合30節又は40節）を曳網することによって実施した。
- ・10～3月は、県中部（湯梨浜町～北栄町沖水深約10m）の海域で小型底びき網漁業者の魚網（ビーム10m, 目合6節）を曳網することによって実施した。
- ・賀露地方卸売市場と境港地区において市場調査を実施し、ヒラメ、マダイ等を測定した。

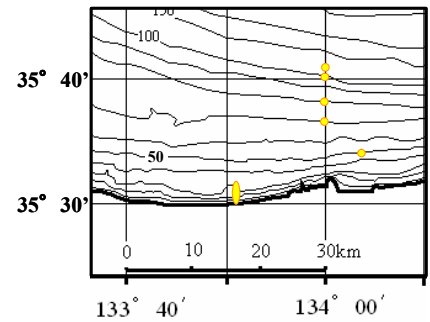


図1 小型桁網調査の定線（丸）

3) 結果

①ヒラメ

【漁獲量】

- ・平成25年（2013年）の漁獲量・金額は、50トン、62百万円で平成24年の55トン、79百万円から減少した。なお、漁獲量は平成19年から低位安定状態にあり、魚価も依然として低い価格となっている（図2、表2）。
- ・漁業種類別漁獲量では、小型底びき網が27.1トン（前年28.8トン）で全体の54パーセント（前年52パーセント）を占めているが、小型底びき網の単価が654円/kg（前年712円/kg）と低いため、漁獲金額は17.7百万円（前年20.5百万円）と全体の28%しか占めていない（表1）。
- ・漁業種類別漁獲金額では、釣が27.7百万円（前年30.3百万円）で全体の38%（前年と同値）を占めている。なお、釣の漁獲金額の減少は、漁獲量の減少（平成24年10.8トン、前年12.2トン）によるものである。

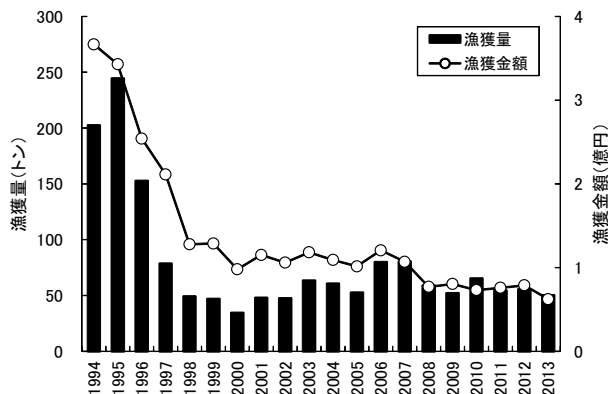


図2 鳥取県のヒラメの漁獲量と金額の推移

表1 2013年漁業種類別ヒラメの漁獲量と金額

	漁獲量		漁獲金額		単価
	単位:t(%)		単位:百万円	(百万円)	(円/kg)
小型底びき網	27.1	(54.0)	17.7	(28.4)	654
釣	10.8	(21.6)	23.7	(38.0)	2,186
沖合底びき網	6.6	(13.2)	8.8	(14.1)	1,330
刺網	4.1	(8.1)	10.5	(16.9)	2,599
定置網	1.1	(2.1)	1.1	(1.8)	1,073
その他	0.5	(0.9)	0.4	(0.7)	934
合計	50.1		62.3		1,243

表2 鳥取県における直近10年間のヒラメの単価の推移

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	直近10年平均
単価(円/kg)	1,797	1,925	1,527	1,327	1,308	1,544	1,121	1,377	1,422	1,243	1,459

【稚魚の発生状況及び成長】

- ・鳥取県中部海域における2013年のヒラメ稚魚分布量の最大値は14.2万尾と、2007年以降では2011年に次ぐ高い数値となった。しかし、近年で最も稚魚分布量の多い平成18年の2,778万尾に比べると非常に低い数値であり、近年のヒラメ稚魚は低い水準でしか分布していない状況が続いている。
- ・2013年におけるヒラメ当歳魚の着底から9月までの成長は、直近5カ年平均より大きかった。

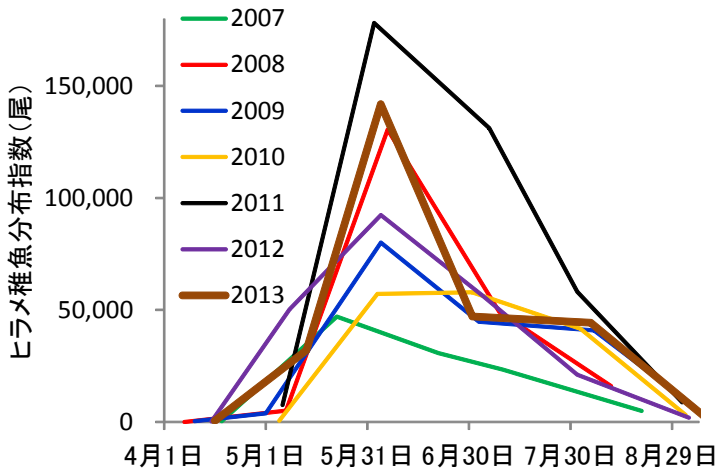


図3 鳥取県中部海域におけるヒラメ当歳魚の分布量の推移(2007-13年)

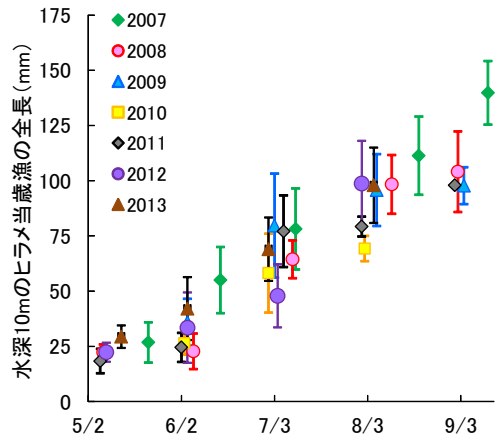


図4 鳥取県中部海域におけるヒラメ当歳魚の成長の推移(2007-13年:水深10m)

【2014年漁期予測】

- ・2歳魚(2012年級群)の8月時点の発生量は少ないものの、小型底びき網の漁獲主体である1歳魚(2013年級群)、3,4歳魚(2010, 2011年級群)の稚魚の発生量は、近年の平均以上であるため、漁獲量が若干増加するが低調なままと考える。

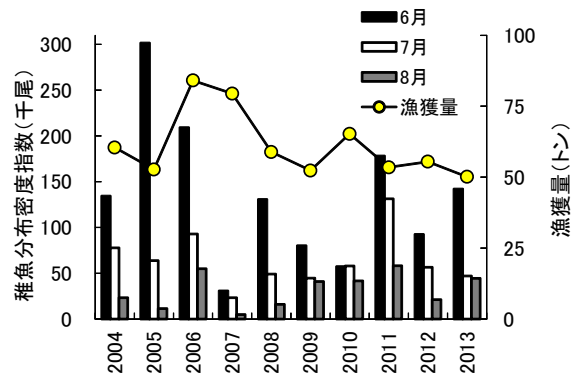


図5 鳥取県中部海域におけるヒラメ当歳魚の6-8月の分布量と漁獲量の推移

②ナガレメイトガレイ

【漁獲量】

- ・平成25年(2013年)の漁獲量・金額は32トン・24百万円で、前年の15トン・11百万円から増加はしたものの、過去3番目に少ない水揚げとなった。

【稚魚の発生状況】

- ・平成25年(2013年)のナガレメイトガレイの着定稚魚の発生量は、直近10年間では2006年に次いで多かった。

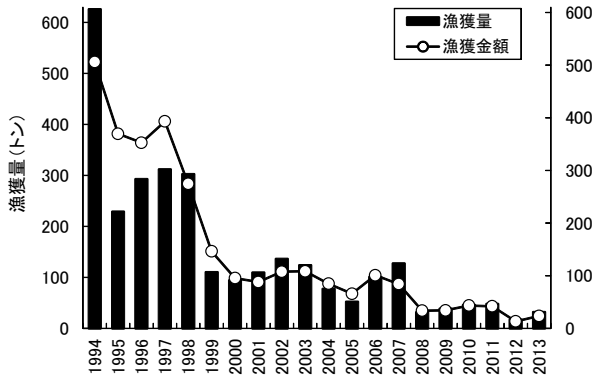


図6 鳥取県のナガレメイタガレイの漁獲量と金額の推移

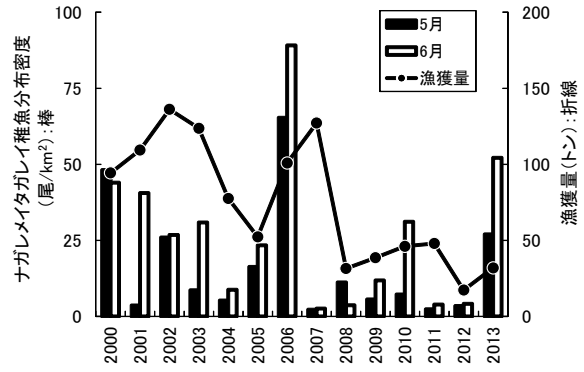


図7 鳥取県中部海域における5,6月のナガレメイタガレイ稚魚の分布量

【2014年漁期予測】

- ・漁獲主体である1歳魚に当たる平成25年（2013年）の稚魚の発生状況は、良いことから、漁獲量は増加すると考える。

③マダイ

【漁獲量】

- ・平成25年（2013年）の漁獲量・金額は122トン・85百万円で、前年の202トン・135百万円から減少した。

【稚魚の発生状況】

- ・平成25年（2013年）の鳥取県中部海域におけるマダイの稚魚の5月の発生状況は、直近10年間では最高であった。

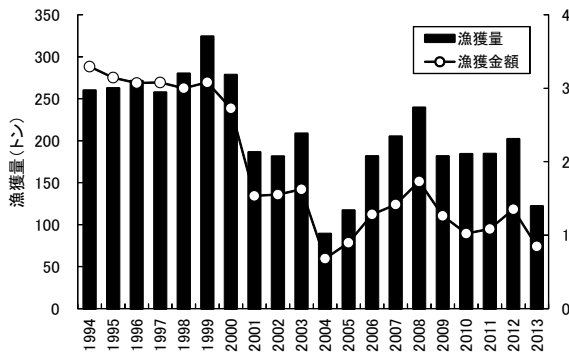


図8 鳥取県のマダイの漁獲量と金額の推移

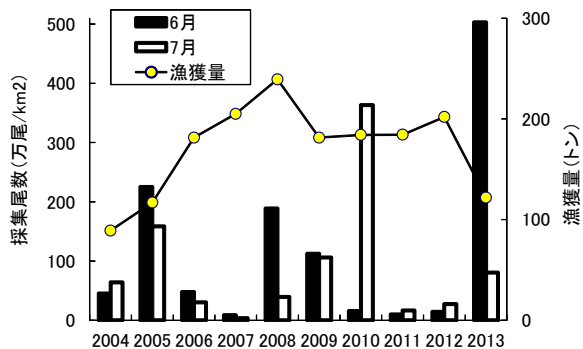


図9 鳥取県中部海域における6,7月のマダイ稚魚の分布量と鳥取県のマダイの漁獲量

【2014年漁期予測】

- ・漁獲主体は1~3歳魚である。平成26年（2014年）漁期は、平成25年（2013年）級群の発生が良いが、平成23,24年（2011,12年）級群の発生が悪いため、漁獲量は大幅な増加は見込めない。

4) 考察

ヒラメは稚魚の発生状況は依然として少なく、今後の資源量は現状の水準で推移する可能性が高い。ナガレメイタガレイについては、平成25年（2013年）の稚魚の発生状況は良かったものの、資源状態は低位であり、急激な資源量の増加は見込めない。

また、マダイについても、平成 23,24 年（2011,12 年）の稚魚の発生が悪く、産卵親魚の減少による資源の悪化が懸念される。

5) 成果と課題

経営が悪化している小型底びき網にとって、重要なヒラメ、ナガレメイタガレイの資源状況が低位であり、また、刺網での重要魚種のマダイについても資源量の減少の懸念がある。このため、資源管理がより一層重要な状況であり、モニタリングを継続することが必要である。